

自動車・同付属品製造業における乗用車、バス、バイクを起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	18～19	被災者は、出勤のため構内移動用のバスに乗車していた際、バスが幹線道路脇のH鋼支柱に衝突し、その衝撃で首及び右頬をぶつけ被災した。	36	10000～
1	15～16	塗装部第2塗装課に従事する受傷者Aは、業務が終了し、自家用車にて会社立体駐車場を2階から1階へ下りていった。2階から1階へのカーブに差し掛かった際、出勤のために1階より上がってくる作業員Bの車両をカーブミラーで認識し、内側に寄って一旦停止し待機した。作業員Bは、2階のカーブを曲がる際に受傷者Aの車両に気づいたが間に合わず、正面衝突し、受傷した。	40	1000～9999
2	6・7	車両製造工場内組立工程にて、車両内に上半身を入れながら各種部品の組付け（ステアリング下部の配線、シート周辺カバー等の取付け）習熟を行っていたところ、左胸に違和感を感じるようになった。筋肉痛だと思い、そのまま作業を続けていた。後日早朝、左胸に強い痛みを感じた為、医師による診察・治療を受けた。	37	1000～9999
3	20～21	組立工場ドア工程にてフロントドア組付、及び周辺部品の組付を行っており、左手の作業が多い。左肩付近に軽い痛みがあり、そのあと痛み増して左肩が上がりなくなり、左鎖骨骨折と判明した。	29	1000～9999
6	17～18	終業後、帰宅途中に通勤路である一般道で、左前方に自転車の高校生が停止しており、対向車もあったので停止していたところ、後続の2台後ろの自動車に追突（玉突き追突）された。	35	30～49
7	10～11	本社工場内の防錆作業スペースにおいて、車両のアンダー足回りの防錆作業中。架台の下から車輛の足回りに防錆スプレーをかけていたところ、架台上の車輛が動き出し、車輛のアンダーの金属部分がスプレーを持った右手中指・薬	44	100～299

指に接触し受傷したもの。車輛は運転者がおり、被災者の作業が終了する前に見切り発進したものである。

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pgm/SHISYO\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

Return to : [https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206\\_11.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html)